

IV-31 住民参加型の道路維持管理システム「あいロード」について

建設省 松山工事事務所 調査課 建設技官 正会員 西丸 範生

1. はじめに

建設省では、平成 10 年度から新道路整備五箇年計画において、限られた予算の中で道路整備を推進するために効果的・効率的な展開を図っている。本計画推進方法の柱の一つに、良好なパートナーシップの確立により、国民と行政の適切な役割分担を図ることとしている。また、他の柱として「評価システムの導入」や「道路事業の透明性の確保、PI（パブリック・インボルブメント）方式の実施」があり、施策の導入にあたっては、国民参加の機会の確立や社会実験の積極的な実施が求められている。

松山工事事務所では、本方針に基づき、参加しやすい部分から参加してもらうことで、住民参加型の道路維持管理システムの確立に取り組むこととし、「あいロード」の推進を図ることとした。今回の取組は「あいロード」を本格的に実施していくための社会実験の一環であり、期間・場所を限定しているが、実験を積み重ね、今後よりよい制度として本格導入できるよう取り組んでいるものである。

2. 実施概要

(1)「あいロード」の仕組み

「あいロード」は、米国で実施されている道路養子縁組制度「アダプト・ア・ハイウェイ・システム」を参考にした取り組みである。「アダプト」とは「養子縁組」のことであり、道路を道路管理者の子供に例えて地域のボランティア団体等と養子縁組契約を結び、清掃作業を行ってもらう代わりに団体名入りの看板を道路管理者が設置する等活動の支援を行うものである。

現在実施中の「あいロード」、里親となる地域住民、地元市町村、道路管理者の 3 者が協力して道路の清掃美化に取り組んでおり、地域住民共有の生活空間である道路への愛着心の向上と道路利用者のマナー向上を啓発することを目的としている。

「あい」の語源は、道路「愛」護、「I」 Love My Load、「合」図、「愛」媛等である。

実施にあたっては、それぞれの役割分担を明確にするため、前述の 3 者で「覚書」を交わしている。それぞれの役割分担は以下に示すとおりである。

表-1 役割分担

地域住民	地元自治体	道路管理者
・歩道の清掃活動 ・植栽帯等の維持管理活動 ・その他道路美化活動	・地域住民と道路管理者の連絡調整 ・収集ごみの回収 ・その他清掃活動支援	・活動を PR する看板の設置 ・清掃用具等の貸与 ・その他清掃活動支援

(2)実施状況

「あいロード」は、平成 9 年度から着手しており平成 11 年度では国道 33 号と 196 号の 2 路線 4 区間で取り組んでいる。(図-1 参照)

- a)対象範囲：「あいロード」では里親の活動中の安全が第一と考え、道路のうち歩道及び歩道内の植栽部分に限定している。
- b)実施頻度：月 1 回以上とし、気象条件等により作業が困難な場合はこの限りではないとしている。

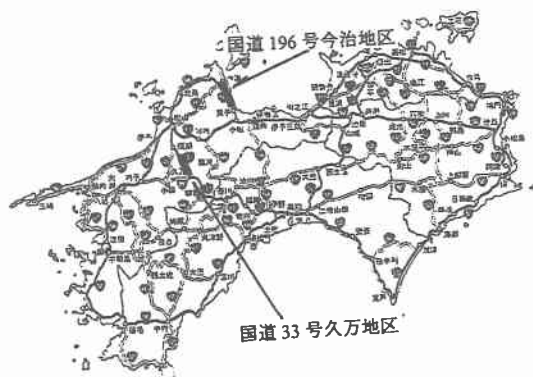


図-1 「あいロード」実施位置

c) 看板の設置等：里親の参加意欲向上と道路利用者のマナー向上を目的として団体名を表示した看板を設置（図-2）。平成 11 年度は信号交差点、簡易パーキング等車が止まる箇所に視野阻害にならないよう小さめの看板（縦 0.15m、横 0.9m）を設置し、併せて「あいロード」区間を知らせるために「あいロード」と「道路を美しく」と表示した小さい看板（縦 0.1、横 0.5m）を植栽帯に連続的（25m ピッチ）に設置している（写真-2,3 参照）。また、里親の安全確保と「あいロード」の PR を兼ねて活動中のベスト着用を義務づけている。（写真-4 参照）

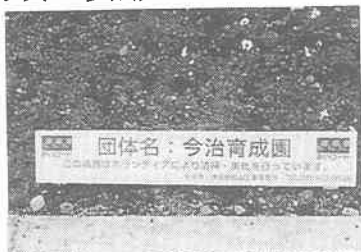


写真-2 看板設置状況①



写真-3 看板設置状況②



写真-4 清掃活動状況

d) ごみ量調査結果：活動の目的の一つに道路利用者のマナー向上があり、実施による効果を期間中のごみ量の変化を捉えるために実施した。この結果、数字上では目に見える減少効果は出ていないが、参加者からは少し減ってきているとの感想も聞かれた（図-2 参照）。

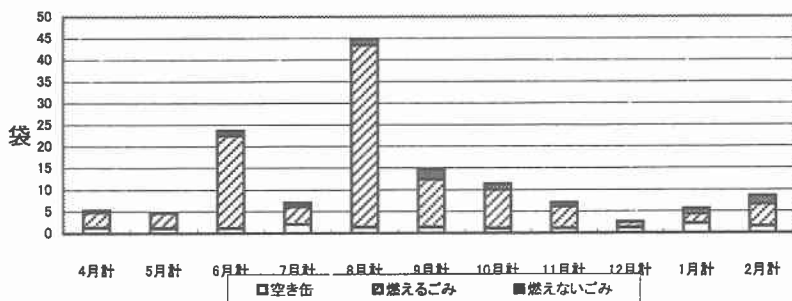


図-2 ごみ量調査結果 (国道 196 号今治地区)

3. 取り組みの効果

(1) 清掃美化レベルの向上

参加者が地域住民であり、日常生活において当該道路を利用していることから、道路管理者が行う清掃レベルに比べ、よりきめの細かい高いレベルでの道路空間の維持が可能となった。

(2) 道路への愛着心の向上

里親である地域住民の道路に対する愛着心向上に関しては実施中の意見交換会や実施後の反省会等の意見聴取により良好であること分かった。参加者からの主な意見は以下のとおりである。

- ・団体名を表示した看板の設置により、これまで以上に清掃美化に対する意欲が高まった。
- ・看板の設置により、これまで関心を示さなかった町民の方も「あいロード」に協力してくれるようになった。
- ・「あいロード」の取り組みを契機に、久万中学校では、「園芸クラブ」も設置するなど、美化活動に対する関心が高まりつつある。

(3) 良好なパートナーシップ

3 者の信頼関係を前提とした「あいロード」を通じ、これまであまり接触の機会がなかった沿線の住民や団体と対話によるコミュニケーションの機会が生まれ、良好なパートナーシップが保たれている。

4. 今後の課題

(1) 内容の充実：「あいロード」は未だ制度としての確立には至っていない。このため前述の「あいロード」の目的達成を目指し、看板設置の工夫や安全の徹底、参加しやすい仕組みづくりなど参加者からの改善意見や他地域での取り組み事例も踏まえた上で、早期に制度として確立していく必要がある。

(2) 対象区間の拡大と体制づくり：ドライバーアンケートや里親の感想から、行政と地域住民が協力して取り組む「あいロード」は好評であり、内容の充実と併せてこの取り組みをアピールし里親参加拡大のための一般公募や問い合わせ対応等に本格的に取り組む体制づくりが必要である。